

一般質問

3月定例会



瀧尻 行雄 議員

Q Uイターンの定住促進は

「空き家」と「農地」をセットにするとともに、農地の取得制限の緩和が必要である。農地取得の下限面積を引き下げることに伴い、Uイターンの定住促進に繋がる。併せて、営農組織、JA、農家等が支援し、地域の担い手として繋がれば、心温かい地域形成が出来るようになる。町長の思いを問う。



農地

A さらに進める

町長 山崎 英樹

Uイターン者は、今日までの受け入れが50人を超え、就農者が7人で、農業振興に寄与されている。移住しやすい「空き家」「農地」の定住対策をさらに検討する。下限面積の引き下げは、農業委員会で協議していただき、定住増に繋がるよう取り組んでいく。



空き家

Q 老朽化した福祉施設の更新を

頓原にある福祉施設は老朽化が進み、雨漏りもある。また、障がい者施設では、裏山が急斜面のため危険であり、建て直す時期ではないか。福祉は、地域住民にとって身近なものである。病院、介護施設、障がい者施設、定住住宅を集約し、「医療・福祉」を中心とした町づくりを進めることができる。

関係機関と連携し、福祉施設を持続させ、地域が発展することを願う。町長の思いを問う。



旧保育所を利用した障がい者施設

A 支援のありかた研究する

町長 山崎 英樹

町内の高齢者福祉施設は、本町の町づくりに欠くことのできない施設であり、老朽化についても大きな課題と認識している。また、旧保育所で実施中の障がい福祉サービスは、障がいをお持ちの方々にとって大切なサービスであると認識している。サービス実施事業所からも、施設の老朽化による建て替えの要望を聞いている。今年度、障がい者福祉計画を策定するにあたり、どのような支援が必要であるか研究していく。



福祉施設愛寿園は築35年を迎える

一般質問

3月定例会



内藤 眞一 議員

Q 商標登録の検討状況は

前回、飯南米に「日本一の大しめ縄」ブランドの付加価値を提案した。町長は「JAとも相談し検討する」との答弁だったが、その後どうなったか。

町長 山崎 英樹

コシヒカリによる商標登録戦略を価格上昇に結び付けるのは困難だ。

とは言え、この度の「日本一の大しめ縄の架け替え」は絶好のチャンス。7月の大しめ縄奉納時の飯南米配布や、神門通

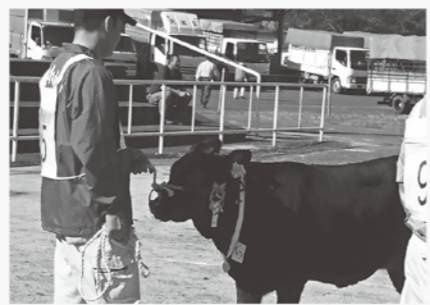


しめ縄作りの準備を進める組員

Q 飯南ブランドの和牛飼育を

昨年の宮城全共での島根県の成績は大変残念な結果であった。本町も、どのような支援が必要か、関係者とよく話し合うべきである。

島根県が、9年後の全共に向け「しまね和牛振興対策事業」に約1億9千万円を計上すると報じられた。本町も、飯南ブランドの和牛飼育への活用など積極的に支援をすべきだ。



島根県中央子牛共進会

りに新規出店する店舗での販売を予定している。一方で、品質・食味に優れた上位米の増量を図るため、特別栽培増産への取り組みをさらに進める。

A 4年後に向け再起を誓う

町長 山崎 英樹

「農業は本町のまちづくりの要を成すもの。畜産は農業の中心となるもの」との思いで、積極的支援策を講じている。飯南町優良肉用牛改良事業として、優良基礎雌牛保留と受胎移植事業を行ってきた。

平成30年度も、優良肉用牛改良事業による保留・導入支援を行う。また、雲南農業振興協議会でも4年後の全共を目指し、島根県有種雄牛「久茂福」の交配支援と独自の血統構成対策事業に取り組む。

飯南町和牛改良組合・JAなど、関係団体との連携で、生産基盤確立など体制を再構築し、4年後に向けて再起を誓う。

Q 告知放送の内容改善を

この冬の水道漏水確認を求める告知放送は、誠に不親切な放送であった。防災マニュアルには如何に記載されているのか。

人命第一、次にライフライン確保、生命と財産を守るのは行政の仕事だ。防災責任者として、町長の答弁を求める。

A マニュアル化し改善する

町長 山崎 英樹

多岐に渡る告知内容を整理し、住民に分かり易く放送することは大切である。真摯に受け止め、今後マニュアル化し改善する。

